平成２２年度　第２回北海道地方独立行政法人評価委員会公立大学部会　会議結果

１　開催日時

平成 22 年 8 月 10 日（金）13:30～15:15

２　開催場所

道庁本庁舎３階危機対策局会議室

３　出席者

【委員】

舟橋　健市　部会長（公認会計士）
宇根　良衛　委　員（独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター　院長）
和田　健夫　委　員（国立大学法人小樽商科大学副学長）

【事務局（大学法人運営支援室）】

古屋参事、漆館主幹、沼田主査、樋口主任

４　会議次第

１　開会
２　部会長挨拶
３　議事
（１）　平成 21 年度　北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表及び利益処分案について
（２）　平成 21 年度　北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果（素案）について
４　閉会

５　議事概要

（１）　平成 21 年度　財務諸表及び利益処分案について

【部会長】
・　まず資料３「平成２０年度評価結果への対応」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】
・　資料３をご覧ください。資料の左側には、昨年度の評価委員会における平成２０年度の業務実績に関する全体評価の指摘事項と、項目別評価の課題について記載しています。資料の右側が、その各項目に対しまして法人が２１年度中に対応した内容を記載しています。
・　まずは全体評価における指摘事項についてですが、①の「年度計画は到達目標を具体的に明示すること」、「自己点検評価においては達成状況が客観的に判断可能な記載とすべき」については、「平成２２年度の計画策定に当たっては、より具体的な記載となるよう努めた。また、平成２１年度の自己点検評価においては、出来る限りデータを付したり、検討過程を極力詳細に記載するよう努めた」としています。
・　②の「経営状況を客観的に分析できる財務指標を設定し、年度間比較等の経営分析を行うこと」については、手持ち資料の１をご覧いただきたいのですが、ここで財務の健全性、効率性、収益性、業務活動を分析する指標を設定し、２ページ目にあるように平成１９年度から２１年度の３ヵ年の比較で財務分析を行ったところです。
・　その次の項目別評価における課題についてですが、③の「職員の評価制度の構築」及び④の「職員の業務評価を反映する給与制度の導入」につきましては、中期計画において、平成１９年度までに職員の評価制度を構築すること、平成２０年度までにその評価に基づき、インセンティブを

付与するシステムを導入することを計画していたわけですが、平成２０年度までに達成できなかったことから、課題となった項目です。
・　これにつきましては、職員の勤務実績を踏まえた勤勉手当に係る勤務実績評価制度を、平成２２年１２月期の勤勉手当から実施することとなったところです。
・　昨年度の評価結果への対応の説明は以上です。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　次に、最初の議題ですが、財務諸表及び利益処分案についてですが、審議の前に資料について事務局から説明をお願いします。

【事務局】
・　それでは、平成２１年度利益処分案について説明します。
・　まず、法人における利益及び損失の処理についてですが、法人は毎事業年度、損益計算の結果として利益を生じた場合には、まずは前年度から繰り越されている損失を補填することになっていまして、それでもなお残余があるときは、積立金として積み立てることとしています。
・　ただし、例外がありまして、知事の承認を受けて残余の額の全部又は一部を、中期計画であらかじめ定めてある剰余金の使途に、翌年度以降充てることができるということとされています。
・　この知事の承認に当たりましては、地方独立行政法人法に基づき、あらかじめ評価委員会の意見をお伺いしようとするものでございます。
・　まず資料４「平成２１年度財務諸表の概要」をご覧いただきたいと思います。
・　この資料は、法人における財務諸表を簡単にまとめたものでございまして、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、行政サービス実施コスト計算書というものを表しています。
・　金額は１００万円単位で記載をしておりまして、括弧書きが平成２０年度の数字となっております。
・　それで、２１年度の法人の利益につきましては、資料の右側上段に、損益計算書で示しておりますが、経常費用の総額が２８８億８０００万円、経常収益の総額が２９１億５１００万円で、経常収益から経常費用を差し引いた経常利益が、２億７１００万円となっているところです。
・　この経常利益から、臨時損失９００万円を差し引いたものが、当期純利益です。
・　ここから、２１年度はございませんが、目的積立金取崩額を加えたものが２億６２００万円となり、当期総利益となります。
・　次に資料５「平成２１年度利益処分に係る知事の承認の概要」をご覧ください。
・　知事の承認につきましては、評価委員会の審議を経て道が定めた「経営努力認定基準」に基づいて行うものでございます。
・　先ほど説明しましたとおり、平成２１年度の当期総利益は２億６２００万円でございまして、これをどのように処理するかということですが、経営努力認定の基準ごとに説明をさせていただきたいと思います。
・　まず、「自己収入から生じた利益」につきましては、今年度は該当がありませんでした。
・　次に、「中期計画の記載内容に照らして、本来行うべき業務を効率的に行ったため費用が減少した場合」につきましては、診療収入の増や法人運営費の節減により、一応収益は出たわけですが、一方で医薬材料費などの経費が増加しまして、収益減が２億７００万円、人件費の節減に伴う収益が４億９６００万円計上されております。
・　その次の「その他、地方独立行政法人において経営努力であることを立証した場合」については、経常利益の圧縮要因としましてマイナス１億５７００万円が計上されています。
・　以上の合計額が１億３２００万円となりまして、これを法人の経営努力として承認したいと考えております。
・　これ以外の１億３０００万円については、経営努力外の積立金として整理をしたいと考えております
・　財務諸表及び利益処分案についての説明は以上です。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　今、事務局から財務諸表と利益処分案について説明していただきましたが、何かこれについてご質問等はありますか。
・　資料５の右上の個別内容のところの、「経常利益の圧縮」とありますが、経常経費の誤りではないですか。

【事務局】
・　これは経常利益の圧縮です。

【部会長】
・　特にご質問はありませんか。
　（質問なし）
・　なければ、財務諸表と利益処分案の知事の承認に関しましては、部会としては意見なしということで決定します。

（２）　平成 21 年度　北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果（素案）について

【部会長】
・　では次に、「平成 21 年度　北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果（素案）について」でございます。
・　これについては、医大さんの方でヒアリングを実施したり、その他各項目について確認をしてきたところですが、これについてもまずは事務局から説明をお願いします。

【事務局】
・　資料６と資料７に基づきまして、説明をさせていただきます。
・　資料６をご覧ください。
・　これは、法人の自己点検評価に対して、委員の皆様が疑義を持たれた５１の項目について、法人に対し確認を行った結果、法人の評価が妥当と思われる項目ですとか、法人の評価を変更することが妥当と思われる項目について、事務局で整理をしたものです。
・　一番右側の「評価委員会評価案」について、ご論議をいただきたいと思います。
・　事務局としては、法人が２１年度中に検討を行いまして、結論や方向性が決定されたもの、あるいは中期計画の達成に向けて順調に進んでいると認められるものについては、「十分に実施している」というふうに整理をさせていただきました。
・　逆に法人の取組みが、検討段階で終わっているものですとか、あと、中期計画に掲げた目標年度に達成できていないもの、これらについては「十分に実施していないもの」と整理しました。
・　なお、資料７の「平成２１年度北海道公立大学法人札幌医科大学業務実績報告書に係る項目別確認表」については、札幌医科大学が提出した年度計画の自己点検評価３２９項目に対して、これまでの議論を踏まえまして、評価委員会の評価結果を整理した資料でございまして、後ほどご説明いたします資料８「業務実績に関する評価結果（素案）」の基本となるものでございます。
・　資料６の評価の見直しを反映したものが資料７であるとご理解いただければと思います。
・　説明は以上です。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　今事務局から、事務局案ということで見直しをしたということで、説明がありました。
・　見直しのやり方、方法はよろしいのだろうと思います。

・　５１項目あるとのことですが、私も事前に読んでみまして、私からは確認したい箇所が１点ありました。その他皆さんで確認をしていただきたいのは、特に委員の方で「Ｃではないか」と言ったものがＡ評価になったりしているところもありますので、そのあたりを確認できればと思います。
・　私からの確認事項ですが、５ページの通し番号２３番、年度計画番号１０２番です。
・　これは私が意見を付けたものですが、年度計画では「本学が発行する全ての学外向け刊行物の実態を把握し、そのあり方や具体的な発行方法について検討する」とあります。
・　私が疑問に思ったのは、「どこかのセクションで全ての学外向けの刊行物の実態を把握する」というふうに読んだのです。複数のセクションそれぞれで実態を把握して、一箇所にまとめているからそれで全体の実態把握という意味ではなくて、どこか一つのセクションで統一的にやるのかと思ったのです。それでこういう質問になったのですが、その辺りはどうなのでしょうか。
・　特に、一番右側の評価委員会評価（案）の「学外向け刊行物は担当部局により実態を把握しており」とあって、これはそうだと思うのですが、担当部局が一つなのか複数あるのかが良く分からないのです。年度計画の趣旨としては一つの担当部局で把握するという意味なのかなと思ったのですが。

【事務局】
・　それぞれの複数の部局で発行していますので、そこで責任を持って実態を把握しているのですが、後段にありますように、成果物は医大の図書館に全て集約されて、一元的に収集・保管をするようになっているようです。
・　そのようなことから、把握をすることが可能だということで、Ａ評価とさせていただきました。
・　それぞれの担当部署に聞かなくても、図書館で一元的に取り扱っていますので、それで全体を把握することが可能であると。実際そのように把握をしているということですので。

【部会長】
・　「成果物」というのは、学外向けの刊行物も当然含まれているという意味合いですね。

【事務局】
・　そうです。

【委員】
・　それはいいと思うのですが、ただ、中期計画は「学外向け刊行物のあり方について検討する」となっていますので、この計画に対して今回の自己点検でどうして「実施した」となるのかということを、大学には考えていただかないといけないと思います。
・　こういうことになると、一元的にどこかで、全ての雑誌について見直しをするとか、広報の仕方を考えるとか、中期計画を達成するために、あり方について一般的な方向性を示すような文書なり報告書なり、方針とかを作らないと、おそらく中期計画の達成は難しいように思います。
・　個別の部署でそれぞれがやっているということでよいと中期計画は意味しているのだというのであればそれはそれでいいのですが。
・　一元的に把握するだけではなくて、「あり方を検討する」のが最終目標ですよね。
・　次年度以降はそういった点を踏まえてやっていただかないと、中期計画の達成には行き着かないような気がしますね。
・　今年度の計画については関係ないことですが。

【部会長】
・　そうですね。次年度以降はそういった点を気をつけて見ていくと。
・　今回に関しては、図書館で一元的にというか、最終的にそこで集約されるということでよろしいと。

【委員】

- 他にも色々、学外広報誌とか、学生向けの広報誌とか、大学にはたくさんありますよね。
- 年度計画はそういった全ての刊行物を、というように読めるのですが、法人自己評価では今年度は年報、紀要、研究成果、医学雑誌とか、そういったものしかやっていないような記載内容ですよね。
- 年度計画は「全ての学外向け刊行物」となっていますので、これだけでは不十分なような気がします。

【部会長】
- そうですね。２１年度の分としてはＡ評価でよいかとは思いますが、中期計画の趣旨をそれで貫徹できるのかどうか。

【委員】
- そうなのです。今回はＡ評価でもいいのだけれど、中期計画の面から見たら、これだけでいいのかという話になってしまいますね。
- そこは心配です。

【部会長】
- そういった、少し心配であるということに触れた上で、この項目については評価（案）でよろしいかと思います。
- その他、どうでしょうか。私が読んだ限りでは評価（案）で良いのかなという気はしますが。
- 他の委員の皆さんはいかがでしょうか。

【委員】
- 通し番号２７番は、Ａ評価からＣ評価になっているのですが、何かしらの検討をしたようにも見えます。
- 自己評価では「検討の結果、具体の検討については平成２４年度から検討を行うことが適当との結論を得た」ということなので、検討をした結果そうなったということであれば、Ｃ評価というのは少し厳しいような気がします。
- 中期計画自体も良く分からない内容ですが。
- 平成２０年度に評価制度を作ったのであれば、教員の活動の評価というのはある程度一定の期間をおいてやらないとできないので、それは２４年度にやるしかないとなりますので、それはそのとおりだと思います。
- おそらく、年度の最後に各教員の評価をまとめてやるということだと思います。そういうことにしたというのであれば、Ｃ評価でなくてもＢ評価でもいいのではないかという気がします。
- もっとも、この中期計画で何を考えているのか、おそらく何かしらの意図はあると思うのですが。
- 「改善策を盛り込んだ計画を作成する」となっていますよね。

【事務局】
- ２４年度には計画を作ると言っています。

【委員】
- この「計画」とは何を指しているのでしょうか。
- ２４年度は最終年度ですよね。それではちょっと遅いような気がします。
- 「改善策を盛り込んだ計画」というのは、評価の結果を踏まえてということですよね。

【部会長】
- そうですね。これまでの評価結果を踏まえてその次に反映させた計画を作ると。具体性はないのですが。
- 年度計画で「改善策を盛り込んだ計画のあり方について検討する」と記載しているのだから、

「あり方」だから、何らかの検討ができるのではないかと思います。

【委員】
・　でも検討した結果、ちょっと無理だということになっているわけですよね。

【委員】
・　何か、計画自体の中身が具体的にどういうことかというのが分からないですね。
・　研究者ごとの評価、例えば発表論文とかのデータベースを作るとかですか。

【委員】
・　評価（案）の「検討が確認できない」というのはどういうことですか。検討したかどうかはっきりしないということなのでしょうか。自己評価では「検討した」と書いてありますけど。

【事務局】
・　具体的にどういったことを検討して、２４年度から検討することが適当だという結論に達したのかというところが確認できなかったものです。

【委員】
・　はっきりと示す資料が出てこなかったわけですか。それでは仕方がないですね。
・　わかりました。
・　そうすると、きちんと検討もしていなかったのかもしれないですし、検討していなければＣ評価ですね。
・　議事録か何かをきちんと残しておかなければならないですよね。検討した部署があるのでしょうから。

【部会長】
・　これはＣ評価で仕方がないですね。
・　その他、最終的にＣ評価になっているのは、６ページの通し番号３２番、年度計画番号１５９番ですが。

【事務局】
・　これは中期計画で「平成２１年度までに創設する」となっているのに、２１年度に創設できなかったので、Ｃ評価となっているものです。

【部会長】
・　これは明らかにＣ評価ということですね。

【委員】
・　自己評価にも「創設することができなかった」と書いてありますね。
・　だけど自己評価ではＢ評価になっているんですね。それはいくらなんでも無理です。

【部会長】
・　この年度計画番号１５９番については、Ｃ評価でよろしいですか。
・　中期計画で２１年度までに創設となっているけども、創設できなかったということですから。努力したのは分かりますけども。最終的にはできたかできなかったかということになりますので。
・　途中の年度でしたらＢ評価とする余地もあるかもしれませんが、最終年度ですからこれは仕方がないという気がしますが。
・　これはＣ評価でよろしいですね。

（異議なし）

・　あと他に、各委員の意見段階ではＣ評価ではないかいうことだったのが、最終的にＡ評価であろうという項目がいくつかあります。
・　まず年度計画番号６番ついてですが、これはいかがでしょうか。
・　年度計画では「検討する」とあって、検討を行って一定の方向性を示して、２２年度から導入されているということによりＡ評価でよいのではないかというのが、評価（案）ということです。
・　これはそういう判断でよいと思いますが、いかがですか。検討して方向性が出たと。

【委員】
・　そうですね。２１年度に方向性が出て、２２年度から実施するわけですから。Ａ評価でよいと思いますね。
・　カリキュラムはその年にすぐにはできませんので。必ず新年度からですから。

【部会長】
・　これはこの考え方でよいと思います。
・　あとはどうでしょうか。

【委員】
・　通し番号２９番、年度計画番号１４３ですが、地域への医師派遣で、法人自己評価はＡ評価ですが、私は年度計画に数値目標が示されていなかったのでＢ評価ではないかと指摘していました。
・　指摘したのは、派遣の率と、実際にどういう活動をしたのかという記載がなかったという部分で、Ｂ評価ではないでしょうかと。
・　中期計画の６０％に近づいているということで、Ａ評価ということなのでしょうけど。

【部会長】
・　そうですね。着実に数字が伸びているという意味合いですね。
・　派遣後の活動状況というのはどういうイメージですか。

【委員】
・　要するに派遣の中身なのですが、派遣してもらう側から見ると、ちょっと２～３時間ぐらいのお手伝いというものと、１週間ぐらいはいて欲しいとか、１ヶ月交代で続けて欲しいとか、幅があるので、そういうものを全部一緒にして率を出しても、あまり現状を表しているとはいえないので、もう少し具体的に書いて欲しいなと思います。

【委員】
・　働いた時間数ですよね。

【委員】
・　そうなりますね。時間数となってしまいますね。いろんな形態がありますから。

【委員】
・　じゃあ、派遣の数が少なくても、実際に働いた時間が多ければ実績も上がると。

【委員】
・　例えば地方の公立病院から、医者がいなくなったので、１ヶ月交代でもいいから出してくれとか、週に２日でもいいから来てくれとか、色々なケースがあるので、そういったところが見えた方がいいと。
・　ただ行きましたというだけだと、実態が分かりませんよね。

【事務局】

・　医大の方での把握はその辺りもきちんとされていると思いますので、２２年度計画以降の分については、そういった実績をきちんと分かりやすく表記するという形で申し入れします。

【委員】
・　せっかく窓口を一つにまとめたということなので、実態をもう少し分析した方が今後の対策になるかなと思います。

【委員】
・　件数が増えて時間数も増えていれば、成果が高いということですね。

【部会長】
・　わかりました。それではこちらの要望ということで、それは来年度以降の医大さんの実績報告に反映されるようにお願いしたいと思います。
・　その他はどうでしょうか。

【委員】
・　通し番号３９番、年度計画番号２１５番の平均在院日数の件ですが、２４年度には１７日以内にということなのですが、自己点検でＡ評価となっているけれども、これはＢ評価でよいということですね。

【事務局】
・　２０年度も年度計画に対して達成できなかったものですから、Ｂ評価となっています。同様に考えますと、２１年度も１８日という計画に対しまして、１８日「台」ではございますが、１８．６１日ということですから、昨年と同じようにＢ評価が妥当ではないかということにさせていただきました。

【部会長】
・　確かに１８日「台」ということで、Ｃ評価とするのは酷であると。
・　これは年度計画で１８日としているということと、２０年度より若干達成度が落ちたということで、努力はしたのでしょうけれど、Ｂ評価であると。
・　あと３年で１７日以内ということですが、厳しいですかね。医大さんは自信があるのでしょうかね。

【事務局】
・　一方で診療収入との関係もありますので、なかなか一概にはできない部分もあるとは聞いています。

【部会長】
・　あと他にお気づきの点とか、再確認した方がいいというような箇所はありますか。

【委員】
・　通し番号３６番、年度計画番号１９６番については、患者アンケートを行った結果、どうなったのかという評価がされていないので、Ｂ評価でいいのではないかと思うのですが。
・　要は、アンケートの結果をいろんな部署や部門にフィードバックしているということでＡ評価にしたのですよね。
・　だけれども、厳しく言うと、フィードバックした結果どうなったのかというところが大事だと思うのです。
・　アンケートした結果というのは私の病院でも、この項目についてこう改善しようというのは当然話し合いをするわけですので、その結果、次の年度のアンケートでどうなったかですとか、そういうところの評価体制が法人の中期計画の意図するところではないのかなと。

【委員】
- そうですよね。アンケートをするのは結構ですが、アンケートを毎年毎年やるだけでは不十分かと思います。
- 中期計画では「患者によるサービスの評価体制の確立を目指す」とあって、なお書きで「患者アンケートを実施する」と書いてありますから、やはり中期計画の達成に向けて、もう少し体制を整えるようなことをやっていただかないと、このままでは中期計画に対しては不十分であるということになると思います。
- おっしゃるように、アンケートをした結果、それをフィードバックして、各部署が改善に努めるような仕組みを作って、具体的にこういうところを改善しましたと、そこまでいくと、中期計画としても達成しているということになると思うのですけど。

【事務局】
- アンケートについては２０年度にも行っておりまして、２１年度に病院長会議に報告し、そこで病院長から指示が出ているということなのですが、この段階では１年遅れにはなるのですが、２０年度のアンケート結果を元に、こういった意見が出ていますという形でやっております。
- 今回の２１年度のアンケート調査の結果については、医大に確認したところ、それを取りまとめて「接遇マニュアル」というものを作るということで、今、患者サービス向上委員会で作業を進めているということです。
- ２１年度にはできてはいないのですが、２２年度には接遇マニュアルを作って、病院の改善に向けてやっていくということは確認しています。

【委員】
- そういう「体制」はもうできているということですか。

【事務局】
- はい、「患者サービス向上委員会」を設けています。

【委員】
- そういった患者からの評価を病院の改善につなげる体制ができているのであれば、中期計画は大体達成されているということでしょうかね。
- あとできれば、何か改善されたということがあれば自己評価に書いていただくと、我々としてもきちんと機能しているのだなと分かるのですけど。些細なことでも何でもいいですから。

【事務局】
- ２０年度においては、その前の年に実施したアンケート結果を受けて、トイレの手洗い場の温風乾燥機を設置したりとかしています。

【部会長】
- 確かに、どんなに些細なことでも、アンケートをきっかけに改善されたことを具体的に書いていただければ、きちんとやっているんだ、機能しているんだということが評価できますからね。

【委員】
- 満足度調査をやると、接遇マニュアルなどを作ることも大事なのですが、ハード面もあります。トイレがくさいとか、掃除が行き届いていないとか、そういう具体的なところが、次のアンケートではこういう風に改善が見られたとか見える。
- ですので、アンケートをするのは当然で、それに対応するのも当然。その結果どうなったのかというのが大事だと思います。そういうことを私たちはいつも求められるのですが、そういうところが見えてこないなと。
- だから、細かいところでも、ガラスが汚れていたという意見に対して、掃除をしましたとかで

もいいし、そういうことかなと思います。

【委員】
・　書く側からしたら、こんなつまらないことを書くのは面倒だと思うかもしれませんが、評価する方からすると、書いていただいた方が評価しやすいし、助かりますよね。

【部会長】
・　そうですね。きちんと書いていただくということで。
・　その他はどうでしょうか。

【委員】
・　これは評価には直接は関係ないのですが、通し番号３７番、年度計画番号２０１番ですが、結局「特保（特定保健用食品）に関する研究は見送りするとの結論を得たところである」という自己評価なのですが、これはもうやらないという意味ですかね。

【事務局】
・　そうですね。現状では難しいということで、当面は手をつけられないということですね。

【委員】
・　検討の結果そうなったのであれば仕方がないですね。

【事務局】
・　資料７でご覧いただくと分かるのですが、年度計画番号２００番の中で、特保はやらないけれども、「健康管理に向けたタマネギの抗酸化作用の研究」について取組みを進めるとなっていまして、研究のシフトを行うと書いてあります。

【委員】
・　わかりました。

【部会長】
・　２００番の法人自己評価がＢ評価なので、それであれば２０１番もＢ評価ではないかということでしたね。
・　あと、通し番号４２、年度計画番号２３９番の関連ですが、医大には弁理士は２名いるんですね。最初からいらっしゃる方と新規に採用された方ですよね。文言が分かりにくかったです。
・　その他、お気づきの点は何かありますか。

（意見なし）

・　それでは、資料６と資料７についてはこれでよいということで、部会として決定ということにさせていただきます。

・　次に、資料８の説明を事務局から説明をお願いします。

【事務局】
・　それでは資料８の業務実績に関する評価結果（素案）をご覧ください。
・　これは最終的に評価委員会の評価結果として、法人に通知するとともに、知事及び道議会に対しまして、報告するというものです。
・　表紙裏面の「評価に当たっての基本的な考え方」は、評価方法や評価基準、さらに法人の自己点検評価基準、評価委員会の項目別評価基準を記載していまして、基本的に従前と同様の内容となっています。

・　次に、ページが飛びますが、１１ページから「３　項目別評価（総括表）」が最終ページまであります。これは、年度計画３２９項目を２５に分類しまして、年度計画の第１の教育の分野については小分類、第２の業務運営以降は中分類ごとに評価を行っているものです。
・　内容は、法人の主な計画達成状況と、右側には評価委員会評価でつけたＢ・Ｃ評価項目を記載しています。
・　これが一番細かい評価になります。
・　次に２ページの「２　項目別評価」ですが、これは年度計画の１５の中分類の項目ごとに、評価を行っていまして、その中で特筆すべきと判断した項目を、「主な取組みと評価」の欄に記載をしています。
・　また、欄外には、昨年の部会での考え方に沿いまして、項目別評価でＣ評価となっているものについて、「課題」として記載をしているものです。
・　最後に１ページの「１　全体評価」、これは全体を総括するものですが、（１）の「総括」には、法人の年度計画における業務実施状況の中で特に取り上げたい事項を記載しているものです。
・　また、（２）の「業務実施状況」には、年度計画全体としての進捗状況を記載しておりまして、２１年度で申しますと、全３２９項目のうちＡ評価以上となった項目が３００項目あります。率にして９１．２％となっておりまして、総体的には「おおむね順調に進んでいる」と評価をしています。
・　下段の指摘事項については、評価委員会として、法人に次年度以降改善を求める事項を記載しています。
・　一つ目は、「中期計画において、平成２１年度までに達成するとしている項目について、結論が出ていない項目があることから、早急に取り組む必要がある」ということ。
・　二つ目は、「附属病院については、初めて経常損失を計上したことから、引き続き経営の改善に努める必要がある」ということ。この二つを指摘事項とさせていただきました。
・　これについてもご議論をいただきまして、修正あるいは追加を行いたいと考えていますので、よろしくお願いします。
・　以上でございます。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　裏表紙の評価の考え方については、これは去年と全く同じですね。

【事務局】
・　同じです。

【部会長】
・　まず１ページの全体評価について、何かご意見はありますか。

【委員】
・　私は特にありません。

【委員】
・　指摘事項で、病院が経常損失を計上したということなのですが、これは、診療収入は上がっていますよね。だけども材料費だと思うのですが、診療経費が膨らんだということで、その分析が大事だと思います。
・　非常に質の高い、材料も多く使う医療をやっているのでそうなったと思うのですが、そのあたりの具体的な改善策は、法人も考えているのでしょうし、文言としてはこういうことになるのでしょうけど。
・　経営の改善ということですが、収入を増やすのか、材料費等の経費を減らすのかというところまで踏み込んでもいいのではないかと思うのですが。

【事務局】
・　第１回目のヒアリングの時に、理事長からも話があったのですが、病院の経営の改善に取り組むということがありまして、どちらに力点を置いてというのは、ここに書くのは難しいのかなと。
・　色々な背景がありますので、医大の裁量に委ねるという意味で、こういう表現にさせていただいたものです。

【部会長】
・　そうですね。どちらにウエイトを置くかというのは、これはかなり難しい問題ですよね。

【委員】
・　指摘事項の文言としてはこれでよいかと思うのですが。

【委員】
・　部会でそういう意見があったということを、伝えていただければいいのでは。

【事務局】
・　委員からのご意見は医大にきちんと伝えて参りたいと思います。

【事務局】
・　両方の努力をしなければならないと思います。当然、収入を上げる努力をしなければならないでしょうし、経費を抑えることも必要です。その結果として、利益を出していくと。

【部会長】
・　１ページ目はよろしいですね。
・　次は「２　項目別評価」、２ページから１０ページまでいかがでしょうか。
・　Ｃ評価となったものが欄外の黒丸（●）になっています。

【委員】
・　第１の１は「やや遅れている」となっていますが、年度が進んでくると、遅れがちになるのは医大さんだけでなく、よくあることなのですが。特に教育の部分は難しいですね。

【部会長】
・　「やや遅れている」になるのは、ここの項目でＳ評価とＡ評価の合計が９割を超えていないという意味なのでしょうか。

【事務局】
・　そういうことです。

【委員】
・　Ｂ評価がここに集中しているんですよね。
・　第１の全体としては「おおむね順調」になっていると。

【事務局】
・　昨年はＢ評価が１３個でした。今年よりは項目数が多いですが。
・　今年は９６項目中、Ａ評価以上が８３項目で、９割を下回るということで、「やや遅れている」となります。

【部会長】
・　機械的な評価ですから、仕方がないですよね。

【部会長】
・　１０ページまでのところは以上のような感じですかね。
・　１１ページから後ろはそれこそ機械的な部分かもしれませんが、それでも何かお気づきの点がありましたらお願いします。

（意見なし）

・　なければ、全体を通してなにか思い出されたこととかありますか。
・　最初の議案の項目なのですが、利益処分の関係で、１億３２００万と１億３０００万と数字が分かれていましたが、あの数字の一歩前のワークシートみたいなものはあるのですか。こちらにもらうことは可能ですか。１枚もので収まっているものとか。

【事務局】
・　資料５の内訳ということですか。

【部会長】
・　そうです。右のほうに書いてある内訳数字がどこから出てきたのかということですね。
・　いただいている資料のどれかと突合するのですかね。

【委員】
・　意外と少ないですよね。総利益。国立大学は１０億とは出てますよね。規模は違いますが。

【事務局】
・　（内訳数字に関する資料を配布）これが資料５の経費の増は収益の増とあるものの内訳になっています。
・　一番上は診療収入の増ということで、診療収入自体は３億円ほど法人の予算との対比では増収となっているのですが、例えば医薬材料費が多くかかってしまったとか、診療経費が嵩んだということで、トータルで言えば２億８９００万の減益となっているということです。
・　資料５の経費の増がマイナス２億円とありますのは、附属病院に関する２億９８００万円の減益と、経費の節減による増収分９２００万円の合計で、２億７００万円となっているものです。
・　４億９６００万円は人件費で、経常利益の圧縮要因がマイナス１億５７００万円となり、合計すると１億３２００万円
・　これ以外の１億３０００万円の医療情報システムの更新に係る追加経費に対する運営費交付金措置については、経営努力によるものではないということで積立金に整理しているものです。

【委員】
・　教員の数を減らしているのですね。教員等の欠員不補充が１億８０００万円。

【事務局】
・　定員に対して、欠員の不補充が間に合っていないということかと思います。

【委員】
・　そうですか。これはどこでもある話ですよね。でも額は大きいですね。
・　教員が欠員になってもすぐには埋まらないですからね。公募しても応募がなかったり。それで定員上は空き状態になると。どこの大学でもある話です。

【事務局】
・　事務職員の削減も行っているという話も聞いております。

【部会長】

・　あと他に確認したいこととかありますか。

【委員】
・　あと一つよろしいですか。
・　これは全く個人的な発言なので、医大さんがどうこうということではないのですが、中期計画は６年ですけど、６年目は次期の中期目標を策定しなければいけない年ですよね。
・　そうしますと、そのためには、中期計画の見通しが分からないとできないと思いますので、実質的に今の中期計画は５年目頃には大体目処が付いていなければいけない。
・　医大さんはご存知だとは思いますが、残り３年間で中期計画を少しでも達成するということを考えながら、年度計画を立てていただいた方がいいと思います。
・　おそらく、各中期計画項目について、６年間の実施スケジュールを医大さんで持っているはずで、それにしたがって年度計画を作成していると思うのですけど、年度計画が遅れていたりしていますので、もう一度スケジュールの見直しをしていただいて、中期計画を達成できるものは計画の実施を済ませてしまうということを、そろそろお考えになった方がいいと思います。
・　中期計画の項目もたくさんありますし、あれを毎年毎年の年度計画に入れるのは変だから、よく点検していただいて、完成に向けた取組みをもっと早めた方がいいのではないでしょうか。
・　中期計画で「検討する」となっているものについて、どうすれば達成したことになるのかということは、医大さんがお考えになることでしょうけれども、検討して何らかの結果を出して、方向性が定まった段階で、もうそれは達成したんだということにしても私はいいと思うのです。
・　それで、方向性が決まった後は、何もしないわけではなくて、何かしらのことをして充実させるのでしょうから、それは年度計画を立てないで、括弧書きで今年度はこういうことをやったということを記述していただければそれでいいと思います。
・　そうしないと、毎年毎年何かしらの計画を必ず立てられると、我々がそれを見てＢ評価だＣ評価だとやることになりますから。
・　今年も、見させていただいた中で、これはもう終わっているんじゃないかというものがあるんですよね。例えば資料６の１ページの通し番号２番、年度計画番号１１番。どなたか委員から意見が付いていますけども、そもそも終わっているような内容ですよね。
・　終わっているなら年度計画を立てなくてもいいと思うのです。

【事務局】
・　基本的なところは終わっているのです。あとは改良を加えていっているということですから。

【委員】
・　改良は計画を立てなくてもいいと思うのです。ただ、改良したことは括弧書きで書いていただいて、中期計画期間の最後の評価のときにこういうことをやったと書いてもらうと。
・　そういうふうにしていった方が、いいのではないかと思います。
・　もう一度中期計画の進捗状況を見直していただいて、今までやってきたことをもう一度見た上で、できるだけ終息に向かって取り組まれた方がいいのではないかと思いました。

【事務局】
・　これまで、年度計画ばかり議論してきましたけども、前回もお話が出ましたように、中期計画がどう達成されているかということですから、このあたりを検証していかないとならないなというふうに私も感じています。

【委員】
・　医大さんの方では、そろそろ中期計画を睨みながらやっていかないといけないですよね。

【事務局】
・　ですので、来年の評価の時にはそういうような資料も揃えていきたいと考えています。
・　どういう形で達成できたかということを確認して、達成できていない部分も当然あるかと思い

ますので、そこについては、これからどうやっていくのかということを法人に示してもらうと。

【部会長】
・　これで大体議論は出尽くしましたか。

（意見なし）

・　では、本日の部会はこれで終了いたします。
・　事務局からお願いします。

【事務局】
・　それでは、本日はお暑い中、長時間ご議論をいただきまして、ありがとうございました。
・　今ご審議いただきました内容については、３０日に、部会は開催しませんので、本委員会に向けて事前に資料としてお配りさせていただきます。
・　長期間にわたり、時間のない中で細かい資料の点検、ご審議、ありがとうございました。最後の本委員会がまだ残っていますけれども、本日はこれで終了させていただきます。